

鈴鹿市子ども条例（仮称）をつくるためのアンケート 集計結果

鈴鹿市では「子どもにやさしいまち」をつくることを目指し、「鈴鹿市子ども条例（仮称）」を制定するに当たって、アンケートを実施しました。結果は以下のとおりです。

- 【対 象 者】 18歳以上の市民（2023年4月1日時点で18歳以上の方）
- 【回答期間】 令和6年2月28日（水）～3月22日（金）
- 【回 答 数】 221件

問1 あなたの年齢について教えてください。

単位：人	
18歳～29歳	8
30歳～39歳	41
40歳～49歳	49
50歳～59歳	60
60歳～69歳	41
70歳以上	22

問2 あなたは「子どもの権利」について知っていましたか。

単位：人							
	全体	18歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上
内容までよく知っている	27	1	4	4	7	7	4
内容について少し知っている	84	3	23	15	16	15	12
聞いたことはあるが、内容は知らない	84	3	11	21	28	16	5
聞いたことがない	26	1	3	9	9	3	1

問3 子どもにとって特に大切だと思うことを教えてください。（いくつでも可。選択肢に該当が無い場合は、「その他」欄にご入力ください。）

単位：人

	全体	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳 以上
自分の気持ちを自由に言ったり、話したり できること	185	7	38	40	49	34	17
ごはんや寝るところがあって、安心して暮 らせること	203	8	37	45	56	35	22
自分らしく成長できること	162	6	30	39	41	30	16
病気やけがをしたら病院へ行けること	177	7	30	38	52	30	20
仲間とグループを作って遊んだり、スポー ツが出来ること	116	3	23	19	33	22	16
仲間外れにされたり、いじめられないこと	167	5	34	33	46	32	17
周りの人から痛いこと、怖いことをされな いこと	172	7	34	36	51	28	16
将来の夢に向かって、やりたいことができる こと	166	6	31	32	46	31	20
わからない	1	0	0	0	1	0	0
その他	12	0	4	5	3	0	0

問3「その他」回答一覧

何のために学校で勉強するか理解できる環境があること。学校では、やみくもに勉強させるのではなく、将来、就職する際に、なぜ勉強が重要、進学が重要なのかを教えるべきだと思います。（30歳～39歳）
後悔の少ない自己決定と、自己決定の変更ができること（30歳～39歳）
自分のことを自分で決められること（30歳～39歳）
親の言いなりになる必要がなく、自分自身の選択によって楽しく過ごすことができること（30歳～39歳）
一般常識のある親に育てられていること（40歳～49歳）
ゆったりと休むことができること（40歳～49歳）
ダメな事はダメ、と理由を教わると同時にしかってもらうこと（40歳～49歳）
貧富の差がなく、誰でも学べること（塾等）（40歳～49歳）
公共交通機関が市内で格差があるため、通学などで子供でも毎日バスや電車が使えること◎学校のなかでいきづらくなっているのを、カウンセラーさんなど各学校に常駐させること◎地域と子供が密になり屋内で放課後自由に遊べる場所もしくは学べる場所でコミュニティをつくること（無料で）（40歳～49歳）
親の収入に関わらず勉強を教わる環境がある。高等教育が受けられる。暗い時間でも安心して帰宅できる環境。衣食住の心配がないこと。親や友達、その他のお隣などから暴力、暴言を受けないこと。性的虐待もってのほか（50歳～59歳）
1人でいたい時にそうできる（50歳～59歳）
大人に話を聞いてもらえたり、悪いことは悪いと注意してもらえること。（50歳～59歳）

問4 あなたは、普段から子どもの声に耳を傾けていると思いますか？

単位：人

	全体	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳 以上
そう思う	62	2	7	16	12	17	8
ある程度そう思う	144	6	30	32	43	20	13
あまり思わない	15	0	4	1	5	4	1
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0

問5 子どもが困ったり悩んだりしたときに、どのような相談窓口であれば、子どもは相談しやすいと思いますか。
(いくつでも可。選択肢に該当が無い場合は、「その他」欄にご入力ください。)

単位：人

	全体	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳 以上
聞いたことを秘密にしてくれるところ	170	7	28	40	44	30	21
たくさん話を聞いてくれるところ	151	5	31	34	41	22	18
学校から遠い離れたところ	16	0	7	2	5	1	1
SNSやメールで相談できるところ	105	6	20	23	29	18	9
電話や直接会って相談できるところ	97	1	19	20	21	20	16
いつでも相談できるところ	185	8	30	41	49	36	21
わからない	0	0	0	0	0	0	0
その他	14	0	6	3	4	1	0

問5「その他」回答一覧

時と場合によるため何とも言えない。ただ、窓口を作るだけだと費用対効果が悪いが、窓口は必要（30歳～39歳）
どれだけ、相談窓口を設置しても、存在が知られていなければ意味がないと思うので、保護者を含め、しっかりと周知することがまずは重要だと思う。（30歳～39歳）
電話は壁越しに家族に話を聞かれるかもしれない。コール音（保留音）が不安を煽る。いつでも駆け込める交番や駅の改札話所のような安心できる場所に専門のカウンセラーが常駐している。（30歳～39歳）
偏見のないところ（30歳～39歳）
匿名でも、いつでも改善への協力がある（30歳～39歳）
相談したことが親に分からなくて済むが、その点変な大人の相談員でないことも非常に重要（30歳～39歳）
気軽に行ける身近な場所。学校の中、市立図書館、イオンモールなど、相談ごとがなくても誰でも普通に行く場所。（40歳～49歳）
安心出来る相談所か、詐欺まがいの相談所か子供が判断できる認定付きの相談所（40歳～49歳）
すぐに対応してくれるところ（40歳～49歳）
子どもより少しだけ年上の大人が聞いてくれるところ（50歳～59歳）
親に話せる日頃からの信頼関係（50歳～59歳）
所属機関及び信頼できる先生や大人（50歳～59歳）
結論を誘導しないところ（50歳～59歳）
信用できる人（60歳～69歳）

問6 地域活動や行政運営において、子どもの意見を聞くことは大切だと思いますか。

単位：人

	全体	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳 以上
そう思う	129	8	26	26	30	23	16
ある程度そう思う	82	0	12	19	29	16	6
あまり思わない	10	0	3	4	1	2	0
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0

問7 子どもの権利が守られているかを確認するには何が必要だと思いますか。（いくつでも可。選択肢に該当が無い場合は、「その他」欄にご入力ください。）

単位：人

	全体	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳 以上
定期的な子どもへの「子どもの権利」についてのアンケート等の実施	96	3	16	19	27	18	13
「子どもの権利」について子ども同士が話し合う場の開催	132	7	22	29	39	21	14
「子どもの権利」について様々な分野の人が集まって話し合う場・会議体の開催	110	2	16	25	33	19	15
「子どもの権利」を踏まえた施策・取組のチェックリストの作成と評価の実施	101	6	17	14	26	23	15
わからない	17	0	3	5	5	4	0
その他	15	0	3	3	5	3	1

問7「その他」回答一覧

地元の医療福祉大学のカフェの一角に子ども同士が話し合う場を常設し、専門知識のある先生や学生が時間があるときに話し合いに入り、学術的に問題提起・分析し、研究してもらう。（30歳～39歳）
このようなアンケート調査（30歳～39歳）
普段子供と接している我々のような教育サービス業界の人間にも意見を聞いて欲しい（30歳～39歳）
何をもってして権利が守られているかの判断を誰がするかによる（40歳～49歳）
常時、意見を伝えられるメールや手紙ができるシステム（40歳～49歳）
保護者を含めた親子討論会(自治会もしくは学校ごとで)（40歳～49歳）
周りの人や学校でチェックする（50歳～59歳）
子ども主体の取組み(イベントや会議)の実施（50歳～59歳）
定期的な勉強会（50歳～59歳）
手段はわからないが親、学校へのチェック（50歳～59歳）
子どもの健康チェック(かかりつけ医など)（50歳～59歳）
学校や幼稚園、近所の大人が気をつけて気になることはすぐに連絡できるようにする。秘密の厳守。（60歳～69歳）
基準がわかる人が必要（60歳～69歳）
親世代の地域パトロールと子供との相談会の実施（60歳～69歳）
子どもの権利が守られているかを確認・検証する外部の委員会（70歳以上）

問8 子育てしやすい環境に必要なものは何だと思いますか。（いくつでも可。選択肢に該当が無い場合は、「その他」欄にご入力ください。）

単位：人

	全体	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳 以上
保育園や幼稚園、学校などの通園・通学先が身近にあること	170	6	35	41	40	28	20
子育て中の親子が集まったり、遊べたりする場所	119	5	24	23	32	20	15
子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組み	113	5	21	23	28	20	16
子育てサークルなどのグループの自主的な活動がしやすい仕組み	51	1	9	9	14	9	9
子育て中の人への地域の理解	155	6	32	34	42	25	16
地域の大人達が連携して、子どもの活動を育成・支援する場	136	4	23	29	37	23	20
子育ての悩みや困りごとを身近で相談できること	169	5	27	36	50	30	21
子育ての情報の入手のしやすさ	134	5	26	27	35	26	15
わからない	0	0	0	0	0	0	0
その他	15	1	4	6	2	2	0

問8「その他」回答一覧

保育園幼稚園学童など働きながら育てられる環境があること（18歳～29歳）
ほぼ強制参加のPTAや子供会などのマイナスイメージがつきまとうものの廃止。もしくはデジタル化による業務の円滑化（30歳～39歳）
金銭的な支援（30歳～39歳）
別け隔てなく給付金が支給される（30歳～39歳）
財力支援（30歳～39歳）
子育てに対する職場の理解（40歳～49歳）
同じ地区に同学年の友達が居ること。（40歳～49歳）
親が引率しなくても、子どもだけで気軽に遊びに行ける安全な場所。屋内は特になさすぎる。（40歳～49歳）
PTAや子供会など、活動の縛りが無い環境（40歳～49歳）
近くに身内がいない人の学童の優先順位をあげる。保育園、幼稚園の先生を増やしたり給与をもっと高くし、先生の負担を減らす。（40歳～49歳）
市がもっと子育て支援に力を入れること。新しくできたりんりんのように不便なところに市最大の支援センターを作るなんて子育て世帯や将来鈴鹿に居続けたいと思えないような事はするべきでない（40歳～49歳）
扶養控除（50歳～59歳）
地域の方や子供から見て祖父母、叔父叔母などの少しの手助けも必要（50歳～59歳）
経済的に子育てのために必要なものが無償で手に入ること（60歳～69歳）
教育費がかからないシステム（60歳～69歳）

問9 子どもや子育てにやさしいまちづくりを進めていくために、鈴鹿市が取り組むべきだと思うことはありますか？
（いくつでも可。選択肢に該当が無い場合は、「その他」欄にご入力ください。）

単位：人

	全体	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳 以上
地域住民等による見守り支援の充実	115	2	19	26	26	22	20
保護者や子どものための相談・支援体制の充実	149	6	27	33	41	23	19
子どもの社会参画の促進	68	0	12	14	20	10	12
里親制度など養育する大人のいない子どもに対する支援	89	2	17	18	25	16	11
家庭や学校などで権利の侵害を受けている子どものための救済措置の強化	141	4	21	32	37	33	14
家庭の貧困やヤングケアラーなど、困難な状況に置かれた子どもに対する支援	157	5	24	36	43	31	18
声をあげることが出来ない子どもの意見を聞くための取組み	168	5	29	40	43	30	21
同じ立場や悩みを持つ人同士をつなげるための取組み	105	4	22	22	29	17	11
わからない	1	0	0	0	1	0	0
その他	19	1	7	6	4	1	0

問9「その他」回答一覧

幼稚園の延長保育の無償化。それをすることによってパートタイムなどの人が幼稚園を利用してもらえばフルタイムで働いてる本当に保育園が必要な子たちに保育園に行ってもらえるから。または2人目3人目の妊娠出産産休のときにも保育園の利用が通常で預けられると助かる。ファミリーサポートの充実。一時預かりと言っても親のリフレッシュにするなら、支援センターなどに親が連れてってそこで一時的に見てもらえると親も安心できる。ファミリーサポート先のおうちはどんなところなのか、どんな人なのかかわからないので頼むのが不安。みんながみている場所で預かってもらえるのがいい。（18歳～29歳）
市民の意見を聞くだけでなく、実行してほしい。聞くだけ聞いて、あとは市の都合の良いように進めないで欲しいです（30歳～39歳）
上記に挙げられているものに関してはやっている感があるだけでほぼ無意味かと思います。（30歳～39歳）
保育園、小学校のひとクラスあたりの定員の引き下げ、土日祝や一時預かりの拡充、未就学から就学期の連携した支援（言語訓練、療育等）（30歳～39歳）
子ども（例/死にたい）や保護者（例/手をあげそう）がいつでも一時的に避難（場合によっては親子で宿泊）できる、こころの専門家が常駐する施設（空き家空き旅館など利用/人員確保が課題）の運営支援（30歳～39歳）
鈴鹿市の方針を明確にし、計画が過不足なく遅滞なく実施されること（30歳～39歳）
積極的な女性などのマイノリティのインボルブメント（30歳～39歳）
予算の増加（30歳～39歳）
フリースクール助成金制度を作ってください宜しくお願いします。（40歳～49歳）
個人の尊重とわがままをはき違えているこが増えたと思う。自分のわがままを通す為に他のこにしたいからと押し付けるこが増えた。学校できちんとはき違えないよう教育して欲しい（40歳～49歳）
◎貧困には当たらない世帯でも子供の数が増えれば貧困になり、国や自治体から貧困者ではないと思われている家庭にたいしての支援の取り組み（留学費用や入学金など一部負担をしている三重県ないの自治体があるこのような取り組みをいち早く鈴鹿市でもしてほしい）◎教職員の質の向上（塾の先生より知識が乏しく学校の先生の指導能力がかなり低い）また、ハラスメントもあるため全教員が講義を受け本当に学べているのか？市役所主催の試験をすべき◎通学に関して、スクールバスや、コミュニティバスを活用し熱中症対策などの取り組み（40歳～49歳）

児童館をもっと作るべき。すくなくとも中学校区単位であれば、子どもの居場所や相談できる大人や逃げ場ができる。鈴鹿市は子育てしやすいまちづくりというが、乳幼児の支援ばかりで小中学生の支援がほぼない。児童館が近所にあれば、不登校までは行かなくても行き渋りの子や、家に居づらい子の居場所になる。雨の日などの子ども達の遊び場もできる。（40歳～49歳）
この条例や政策の結果、保護者が責任に押しつぶされる事なく、余裕を生み出して、子供に幸せを与えるものであって欲しいです。（40歳～49歳）
子供以前に、大人のマナーの悪さが目立つ。子供はマネをするので、大人の意識も変えるべき。また教育にも力を入れてほしい。また、「学力の低さ」＝「危機意識の低さ」だと思います。それが交通事故の多さに繋がっているのではないのでしょうか。（40歳～49歳）
地域やまちづくりによるイベントなどの取組み（50歳～59歳）
18歳までの医療費無料化アレルギーの検査やエピペンが高い万が一、エピペンがないと命にかかわります（50歳～59歳）
他県には小さい子供の五感を刺激するような公園があるが鈴鹿市は何処も同じような公園ばかりで子供の心が育つような公園がないと思われます。動物と触れ合えたり色々な体験が出来る所を増やして子供の心を育てる事も大事。そういう場所が増えれば親子の笑顔がもっと増えて良い環境に近づくと思います。（50歳～59歳）
親が安心して働ける環境がなければ経済面で子供に十分なことをしてやれないのでまずはそこから（50歳～59歳）
給食費の無償化（60歳～69歳）